

砂名の ベトナムに乾杯

第18回 「日本の可能性を世界に、未来に伝えてゆきたい」中田英寿氏

2018年夏。角打ち【日本酒で乾杯!】のリノベーションを手伝ってくれた知人とローカル店で仕上げ後、弊店に寄ると満員で、店内は酔客の声でわんわんしていた。しばらくすると私のお二人右隣で、真ん中に挟まれたお一人様の男性客がお帰りになられた。

「今の、中田英寿さんでしたね」

カウンターの中で、唯一お客様全員の顔が見えるスタッフがぼつりと言った。二種類の銘柄の酒を同時に注文されたが、どちらも半分ずつ残して店を出られた。一言お礼をと外に出たが、その姿は喧騒のへムに掻き消えていた。聞くところによると、別の店に立ち寄られて、弊社で在庫切れだった「七賢 夏純吟」を注文され、酒の保存状態についてダメ出しをされたそう。さらに2区の物件を購入された、当時カンボジアのサッカーチームの監督に就任された本田圭佑も近くの物件を購入された、という話も漏れ聞こえてきた。中田さんが、日本酒の普及を目的とした(株)JAPAN CRAFT SAKE COMPANYを設立したことは日本では話題になっていたが、当時ホーチミンではあまり知られていなかった。

実は中田さんとは、2010年にも奈良でお会いしている。サッカー選手を辞められたあと、日本の伝統・芸能文化について学ぶため、日本国内を行脚の旅に出ておられた。2010年。私が平城遷都1300年祭にて主催した「zhu JI SI AONIYOSHI



岩手県「南部美人」。杜氏が毎年、弊社にご来店くださり、2018年には蔵元にお伺いさせていただきました。

祝祭礼あをによし」は、中国の昆曲と日本の能楽を映像でつなぐ舞台だった。金春穂高先生にご出演・ご協力をお願いに伺った際に、薪御能の奉納舞として春日大社舞殿で行われる「咒師走の儀」の演目「翁」の写真撮影を許可していただいた。

当日朝。能が始まってしばらくして、後ろの襖がスッと開いた。係員が折りたたみ椅子を並べている。「畳の上に椅子を置くな」と怪訝に思っていると、5~6人の若い男性が入って来た。その真ん中が中田さんだった。いつもテレビで見る雰囲気とは違って、オーラを全く感じない、というより消しておられた。むしろ周りの取り巻きの方々がオーラぶんぶんだった。

中田さんは背筋を伸ばして、静かに舞台を観ておられたが、終盤、そっと出て行かれた。私も追っかけて玄関に出た。上がり框に腰かけ、靴の紐を結んでおられたその背中中は小さく細かった。「中田さん」と声を掛けると、迷惑そうなお顔もされず振り返られた。私は秋に開催する舞

台のチラシと名刺を渡し「良かったら、お越しく下さい」と一気にまくしたてた。嫌な顔一つされず、小さくそれでいてしっかりとしたお声で「はい」と仰ると、名刺とチラシを受け取って帰られた。後日、所属事務所サニーサイドアップから「ご縁を頂戴してありがとうございました」と、ご丁寧なお手紙をいただいた。

中田さんの伝統文化の探求の旅は、「日本酒」に辿り着かれたようだ。毎年(株)JAPAN CRAFT SAKE COMPANY主催、六本木ヒルズで開催されるイベント「CRAFT SAKE WEEK」は、2016年に初開催以降、これまでに累計約60万人を動員し、2020年には全国130歳からの日本酒が集結するという一大イベントに成長していた。さらにKITKATとの商品開発や、オリジナル酒器ブランド「Nathand」を展開するなど、活動の幅を広げている。将来、ベトナムでコラボレーション出来る日が来ればいいな。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学卒業。2015年、ベトナム初の角打ち【日本酒で乾杯!】に続き、2020年、Pham Viet Chanhにて日本酒専門の「角打ちのある酒屋」【蔵 KURA】をオープン。経営に携わる。東京で舞台撮影や制作の仕事をする傍ら、作家活動を行う。2009年よりNPO法人Layer Boxにて、日本の伝統文化について、大学、高校、専門学校とともに、PV、3D、CGなどのコンテンツ制作および世界発信を行う。